元気いっぱい「カラダ」と「ココロ」を動かそう！

～スポーツを通して「社会を生き抜く力」を育む～

子ども達の体力・運動能力の低下、さらにはコミュニケーション能力の低下が問題視される今、これまで以上に「スポーツを通して子ども達の健全な育成を」といった機運が高まっています。こうした中、大阪市では「子どもの体力づくり強化プラン」事業を発足し、さまざまなプロジェクトを展開中。トップアスリートの皆さんにもご協力頂き、参加者からは毎回好評を博しています。そこで今回は大阪市出身のシンクロナイズドスイミング2大会連続銀メダリスト、現在は指導者としてスポーツ振興に活躍中の巽樹理さんをゲストに迎えてお話を伺いました。

Special Interview
スペシャルインタビュー

―まずはシンクロを始めたきっかけを聞かせてください。

巽　ベビースイミングを始めたのが3歳、シンクロへの移転が7歳の時でした。母親いわく「4人兄弟（2男2女の3番目）の中でも、いちばん負けず嫌いだった」からだとか。以降はシンクロひと筋19年間、心身ともに充実した日々を過ごしました。

―シドニー、アテネのオリンピック2大会連続の銀メダルなど、順風満帆な競技人生だったかと…。

巽　それは波乱万丈と言い換えた方が良いかもしれません。実際、練習の厳しさに「もう逃げ出したい」と思ったことが100万回以上ありますから（苦笑）。とくに中学生時代は、「同級生は遊んでいる人もいるのに、なぜ私は練習ばかりなの」と悲劇のヒロイン状態。しかし、親やコーチはどんなに「シンクロをやめたい」とアピールしても、その理由が「しんどい」と言うだけの理由では絶対に聞き入れてくれなかったんです。でも、もしそこでやめていれば現在は無かったですし、シンクロを嫌いになっていたかも…。今では感謝の気持ちでいっぱいです。シンクロを通じて身につけたものは私の財産ですね。「継続は力なり」は私の座右の銘になりました。

―それはいったい…。

巽　当時は技術面ばかりを意識していましたが、振り返ると全体の1％ほどに過ぎません。それよりも努力や忍耐、厳しい態度でのぞみます。演技指導の後は全員参加の発表会で締めくくるんですが、けっこうビシッと決まるので、フィナーレはいつも感動的。

気配りなど、実際に社会へ出て役に立つことをいっぱい学べました。教科書には載っていない「社会を生き抜く力」と言っても良いでしょう。またそれはシンクロだけでなく、どんなスポーツからでも得られるはずです。

―ご自身が指導する立場になってみていかがですか？

巽　私がそうしてもらったように、子ども達の悩みを聞いたり、励ましたりする環境づくりに力を入れています。しかし、ベストなのは自分自身で成長すること。そのためにも、まずは大小に関係なく目標や夢を見つけられるように導いています。誰だってゴールがあるから向かって行ける。しんどい練習にも自発的に取り組めるようになるんです。「自分で限界を作るな」ということもよく話します。

やる気が出れば、自然と結果が伴います。良い結果は自信につながり、意欲にも拍車がかかります。とくにシンクロは全員の一糸乱れぬ動きが要求される競技なので、みんなで成し遂げた時の達成感は格別ですね。

―巽さんには「夢・事業」（※注）にもご協力頂いています。

巽　これは素晴らしい事業だと思い、また私自身が望んでいたことでもあったので、喜んでお引き受けしました。

1日のプログラムのうち前半の講演では自らの体験を正直に話すことで、児童や生徒、保護者の方から共感を招いている様子。私自身、穏やかな表情で話しているはずです。ところが後半のプール実習では、すっかり鬼コーチに変身（笑）。水の楽しさと同時に怖さもわかってもらいたいので、「自分がここまでできるなんて思わなかった」という嬉しい感想もよく耳にするんですよ。

この春に設立したアスリートネットワークのキーワードも「子ども」であり、スポーツを通して本物の感動を味わってもらい、生きる力を育成することが狙い。夏本番を前に、早く私の出番が回ってこないかとウズウズしています。

※注　「夢・授業」は、トップアスリートが大阪市の学校を訪問し、子ども達に「夢」を持つことの大切さを語り、同時に実技指導も行うことで子ども達の「夢」を育み、スポーツを通じた青少年の健全育成を図ることを目的として実施しています。

巽　樹理さん
たつみ　じゅり

職歴
2002年　学校法人追手門学院事務職員となり現在に至る

スポーツ戦歴
2000年　シドニーオリンピックでシンクロナイズドスイミング・チーム銀メダル
2001年　世界水泳選手権福岡大会では、チームリーダーとして銀メダル
2003年　世界水泳選手権では、新種目フリールーティンコンビネーションで国際大会初の金メダル（2001～2003までチームリーダー）
2004年　アテネオリンピックでオリンピック2大会連続銀メダル

社会活動
2004年～　ラサシンクロアドバイザー
2006年～　大阪府生涯スポーツ推進協議会　委員
2007年～　茨木市スポーツ振興審議会　委員
2008年～2010年　関西経済同友会 大学改革委員会 委員長スタッフ
2009年～　大阪市「子どもの体力向上支援委員会」 副座長
2010年～　アスリートネットワーク　理事

学院内活動
2004年～　追手門学院大手前中学1年生水泳授業 特別講師
2004年～2005年　追手門学院小学校にてアスレチッククラブ顧問補助